



色絵人物文香炉



伊万里色絵たらし込牛文皿



伊万里染付鳥文皿



伊万里色絵男子立像

旧三好記念館コレクション  
蔵品展

# 陶磁器 × 生き物たち



青釉鳥首水注



伊万里瑠璃金彩花文四方割蓋



伊万里染付魚形皿



伊万里染付蓮池水禽文大鉢

開催日時

平成28年12月3日(土)～12月11日(日)  
10:00～16:00 休館日：月曜日

会 場

佐野市文化会館 展示室B

栃木県佐野市浅沼町508番地5

入場料

無料

主催・お問合せ先

公益財団法人 三好園

〒327-0317 栃木県佐野市田沼町362  
TEL.0283-62-5497 <http://www.sankouen.org/>



# 陶磁器×生き物たち

ラスター彩鹿文星形タイル

西アジア 13世紀  
径21.0cm

イスラムならではの複雑な文様で構成する建築タイルの一つで、10世紀にはじまったラスター彩は、13世紀にはその魅惑的な技法が大流行をみせました。コバルトを使って釉下に線描をおこなうのは、後の染付の始原的な手法ともいえます。銅によって黄金色に発色し、主題の鹿に青釉を賦彩したエキゾティックな陶器。このタイルで装飾されたモスク(回教寺院)がどれほど強い陽光をあびて燐然と輝いていたか想像するだけでも楽しいではありませんか。

染付人物文六耳壺

中国 明時代 16世紀  
景德鎮窯 高42.0cm

中国の江西省にある景德鎮窯は、明時代になると中国第一の陶窯の位置をかため、見事な展開をみました。この大壺は明後期の嘉靖年間(1522~66)に鎮の民窯でつくられたものです。濃厚な染付顔料を使って伸び伸びと人物図があらわされ、裾には蓮弁文、角には雲鶴文様を描いて、民窯らしい力感のこもった渋滞とした様子が魅力的な作品です。

白磁台牛水注

中国 南宋～元時代 13世紀  
高15.7cm

中国福建省の徳化窯か安溪窯あたりで焼かれた滑稽味のある楽しい白磁で、水注の注ぎ口に牛を模した着想はユーモアがあります。この意匠はのちのちまで続き、日本の茶人は台牛と呼んでいます。やわらかな白磁胎にとっぷりほどこされた細かい貫入のあるほのかに青い透明釉がすっきりとした気分をただよわせています。東南アジアへむけ輸出用に作られたものです。

染付吹墨白兎文皿

日本 江戸時代  
径21.0cm

草創期の伊万里(初期伊万里)の手本は、中国の明時代末期に景德鎮窯でつくられた粗雑な古染付でした。この5枚皿は、染付の顔料である呉須を霧吹きして型紙の文様を白く抜く、古染付が得意とする吹き墨の手法をならった好例です。この印象深い表現は日本人の間でもおおいに愛好され、その手法が醸し出す独特な風韻は、愛好家のあいだでも人気の高い作品です。

## 公益財団法人 三好園(さんこうえん)について

明治44年(1911年)、当園の礎である「蓼沼慈善団」が設立され、大正8年(1919年)に財団法人三好園(さんこうえん)と改組、そして100年を経た平成25年(2013年)、公益財団法人として認定を受け今日に至りました。

当園の主軸は育英事業であり、先々公共の為に資するであろう有為な学生に育英資金貸与を行っております。

小さな公益財団法人ではありますが、大きな志を以て、これまでも、そしてこれからも、この事業を継続して参ります。

また、この間、文化事業にも着手し、1975~2008年までは附属施設の「三好記念館」で、その後(2011年度~)は、美術品をより身近に鑑賞していただけるよう外部施設をお借りして収蔵品を展示公開、今日に至っております。

来年3月には、足利市立美術館でも展示公開を予定しておりますので、是非足を延ばしてみてください。

2014年発刊

旧三好記念館(S49~H20)

